

2021（令和3）年度 マリヤこども園学校評価実施要項

2021年4月1日制定

[目的]

- 学校（こども園）として組織的・継続的な改善を図ること
- 学校（こども園）・家庭・地域の連携協力による園づくりを進めること
- 一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること

[評価]

- ① 自己評価は、当こども園の多職種（保育教諭、栄養士、看護師、事務職員、一時預かり専任者等）によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組の状況について評価を行う
- ② 学校評価関係者評価は、マリヤこども園に在籍する園児の保護者代表と地域住民及び姉妹法人の園長等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う
- ③ 5年ごとに外部の専門家を中心とした第三者評価を実施し、専門的視点からの評価を受ける

[評価時期]

教職員による自己評価	年1回	11月に通知し、一月に実施
評価委員による評価	年1回	11月に通知し、一月に実施
第三者評価	5年ごとに1回	2012年/2017年/2022年

[公表]

学校評価の結果について、保護者及び地域住民にHPを通じて公表する。尚、公表時期については、実施した翌月とする。

[評価委員とその任期]

自己評価者

太田礼子園長、岩崎千佳子主幹保育教諭、千葉佳奈子主幹保育教諭、日比美和保育教諭、西村奈美保育教諭、神林聡子保育教諭、高橋咲帆保育教諭、庄子未恵保育教諭、本橋聡子保育教諭、吉村瑞穂栄養士、安部絵里看護師、岩崎知美事務員、西尾ゆき保育教諭（一時預かり専任）

評価委員

(1) マリヤこども園に通園する園児の保護者	保護者会会長 保護者会副会長	廣田 有紀 黒崎 玲子
(2) 地域関係者	民生委員 民生委員	山野 洋司 鈴木 寛昌
(3) 当園以外の職員	千葉県千葉特別支援学校教諭 学校法人堀口学園 昭苑こども園園長	熊崎 友希 堀口 義也
(4) その他、園が必要と認めたもの		

評価委員の任期は委嘱の日から当該年度末とし、再任を妨げない。

2021年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 保育の方針と目標

全ての人は例外なしに、「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針を定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

1. 心の清い正直な人間（良心教育）
2. 心の豊かな明るい人間（情操教育）
3. 体の丈夫な強い人間（健康教育）
4. 動作の機敏な人間（安全教育）

2. 2021年度の重点課題

1. 保育教諭の質の向上を図り、質の高い保育を継承していく。
2. 現場職員の勤務環境の見直し
3. 1号認定入園者を確保する
4. 危機管理対応に対する研修の充実

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（※評価はA(80%) B (70%) C (60%) D (やっではみたが成果としては50%) E (全く手つかず) で表している

〔学校評価取組の目的〕

- 学校（こども園）として組織的・継続的な改善を図ること
- 学校（こども園）・家庭・地域の連携協力による園作りを進めること
- 一定水準教育の質を保証し、その向上を図ること

〔評価〕

- ① 自己評価は、当こども園の他職種によって（保育教諭、栄養士、看護師、事務職員、一時預かり専任者等）行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取り組みの状況について評価を行う。
- ② 学校評価関係者評価はマリヤこども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の園長他、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う
評価委員（民生委員：山野洋司、民生委員：鈴木寛昌、保護者会会長：廣田有紀、保護者会副会長：黒崎玲子、千葉県千葉特別支援学校教諭：熊崎友希、姉妹法人昭苑こども園園長：堀口義也）

※ 2021年 12月 28日 内部自己評価実施、2022年1月29日学校関係者評価実施

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会						
		評価					評価						
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
教育 保育 方針	職員間の連携を深め、共通理解のもと保育に取り組む 資料①	3	5	5				2	4				アプリの導入、活用、新しい試みへの取り組み、素晴らしいと思います。学校では「Teams」で情報共有や会議を行っています。参考までに。
	創立の精神であるキリスト教保育を学ぶ（聖書のメッセージの理解に努める）	4	7	1	1			2	4				聖書の学びとともに、キリスト教保育の目的について理解を深め、人格、人間性（倫理観、道徳心）の育成に努めてもらえたらと思います。保護者側にキリスト教保育の理念はあまり伝わっていないように思います。しかし、それを押し付けていない部分はそれはそれで良い部分だと思います。朝礼で伝達事項や方針を伝えることはとても大切だと思います。
保 育	保育計画が事前にできるように早目の話し合いの場を計画していく	3	7	1	1			3	3				声を掛け合い、確認をしながら保育準備をしたり、話し合いによる意思疎通を大事にするの良いと思います。園で行われている行事等、早々に知らせていただいているので、家庭の計画も立てやすくありがたいです。コロナで計画の変更等あり、大変だと思います。コロナ禍での早目の決定を下すのは大変難しいのに、努力していることが評価できます。
	職員各自が自己目標を明確にし、定期的に振り返りの時を持つとともに面談を通して次期目標を定めていく	6	5	2				6					職員のモチベーションの維持、向上、職員の定着につながる面談だと思えます。目標に照らした反省の機会を持つことはとても良いと思います。コロナ禍の中、折れずに向上心を持つように、目標設定することは大事なことだと思いました。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会									
		評価					評価									
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E					
教諭の質の向上	質の高い教育保育についての方向性の一致を図る		6	5							3	2				質が高いということはどういうことか、言語化して情報共有し、価値観の統一を図ると良いと思います。 教育目標、保護者のニーズ、教諭の課題をすり合わせていき、一定の方向に向かうことが「質」をあげるのに必要ではないでしょうか。 行事（大きなものから小さなものまで）の仕上がりや子どもから聞く園の様子などからも先生方が皆さん親身になって保育に取り組んでいただけていることがよく伝わってくる非常に質の良い保育をいただけていると思います。
	職種を超えた職員間の連携を図り、子どもを中心とした職員集団となる	7	2	4							5	1				職員間の連携の難しさはありますが、さらに一步踏み込んでお互いの考えていることを伝え合い、理解し合えるようにすると良いと思います。 意見や提案が沢山出だせるような会議作りにも取り組んでみては…。
	配慮を要する子どもについて、専門機関との連携を密にし、職員全体でその子ども支援をしていく	2	8	1	1						3	3				どの子ども園の職員が全員で育てているという自覚を持つこと このような配慮、取り組みをしていただいていることは知らなかったので、改めてありがたいことであると感じます。 言葉かけや支援が園全体で統一されていく必要があると思います。 園、巡回指導、保護者と連携が必要ですが難しいことも多いですね。診断はなくても、こういった特性のタイプの子かということだけでも全員が周知できると良いですね。
保護者との連携と育児	子どもの園での様子を可視化し、より園での様子や子どもの育ちをわかりやすくする 資料②	8	5								5	1				可視化はできていると思いますので、次は目には見えない心の育ちなどを言語化して保護者に伝えることも大切だと思います。 とても楽しく、園の様子がよくわかります。
	行事のアンケートや個人面談等で保護者の思いを確認するとともに、保護者と共に子どもの成長を喜び合いながら育児支援を行っていく 資料③	6	3	2							5	1				保護者アンケートはできていること、できていないことの判定や把握を求めるものではなく、ともに課題を見つけ、具体的な改善策を提案してもらう場にしていくと良いと思います。 担任の先生とコミュニケーションが取れる貴重な時間をいただけることは非常にありがたいです。 保護者の意見を聞けるのはプラスになると思います。良い取り組みですね。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価					学校関係者評価委員会						
		評価					評価						
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
支援	少しでも子どもとの時間を持てるように、また保護者の育児への意欲を高めていけるように絵本貸出コーナーを充実させていく。 資料④	9	3				子ども達が嬉しそうに借りていく姿があり、園の本を家でも読める環境（貸出コーナー）の大切さを改めて知ることができた。 ・昨年度からの取り組みだが、徐々に借りる子が増えてきている ・徐々に増えてきていることに加えて、子どもも手に取る子が増えているので、園内一丸となって周知していくと、保護者の認識も変わるのではないか、と思う→クラスかキュラムでも紹介するなど… ・今後は、案として簡単な「絵本通信」を発行することを実践できるように発展させていく予定	5	1				絵本コーナーの取り組み、先生の顔写真入りおすすめカード素晴らしいです。子どもの頃に親が読んでくれたのを思い出しました。親子の時間を大切にしたい園の取り組みが伝わってきます。 本に親しむ習慣作りになるのでとても良い取り組みだと思います。
組織運営	充分な休息をとり、仕事とのバランスが取れる職場環境を作る。（職員の休憩時間を確保する）	4	3	5	1		「休息」という意味では確保できておらず、業務を行うこともあるが、自由時間として時間を取ることはできているので、業務を行うことがあったとしても、この点は各人の自由なので問題ない ・日々の休憩は取れるように工夫しているが…取れない日もあるのは事実	1		4	1		休憩が休憩になるような働きかけも少しは必要かもしれません。 休息をしっかりとれるような環境をつくっていただき、先生方の心身が健やかであるマリヤこども園であってほしいと願います。 常に子どもがいる状況で休憩というのは難しいこともあると思うが、割り切って休憩をとれるような環境作りも必要ですね。
	効率よく事務業務作業や書類整理を行い、勤務時間内で仕事が終わらせるようにする	4	1	5	3		・「効率よく」という点ではまだ改善の余地あり ・業務量は多いと感じる…個々のスキルの問題もあるが、実質的に重複している業務（帳票）はないか精査して変えていくことも検討の余地あり ・部署内での時間の使い方の話し合いが必要（仕事の優先順位等の共通認識が必要） ・昨年度より土曜日に事務時間を設けていたが、今年度は土曜日の職員出勤数減のため事務時間が持てる日とそうでない日がある。	2	1	3	1		効率化への取り組みは継続的にしていくことが大切です。 補助職員の採用で業務の分散をしても良いかと思えます。 良い保育、質の高い保育を目指すゆえに業務が増えては意味がありません。 働き方改革が必要な今こそ、業務の見直しができる時なのかもしれません。仕事が減ることは教諭にとって「質の高い保育」につながるのでは…と思えます。 スタッフ数を増やし、分業できるところは分業し、より働きやすい環境づくり
園児・職員募集	園児募集の告知方法の見直し	7	3	1			・チラシ配布の地域の見直しをしたところ、少し反響があるので、次年度も継続していく（入園についての問い合わせが増えている） ・SNSの活用も検討していく（今年度後半に動き出したので、次年度発展できるようにしていく） ・関係職員のみで進行し、把握できていない職員がいる→全員で取り組めるようにしたい	6					様々な取り組みができていて素晴らしいです。
地域への取組	非課税団体の社会福祉法人としての公的な取り組みについて （外国籍の方々の相談窓口） （コロナ禍での小学生の居場所作り） 地域交流枠を広げる 資料⑤	9	2	2			・コロナのために従来の形では行えなかったが、その分今の状況の中で何ができるかをしっかりと考えて取り組むことができた。 ・新たに告知用の看板も取り付け ・地域交流の場としても利用できるようなボランティア活動の取組をはじめたところ、定期的にお出でいただけるようになり嬉しい。	6					コロナ禍でもできることを工夫している点が良いと思います。 すべて中止ではなく、工夫して参加できる機会があつて良かったと思います。 ボランティアの活動は素晴らしい取り組みだと思います。地域と園とwinwinだと思います。
危機管理	緊急時の対応を職員共通の理解とし、いつでも対応できるようにする	4	4	5			・職員の入れ代わりがあることや、確認時に参加でき勝った職員がいないかどうか、もれなく確認する必要があり、漏れている職員への周知をしっかりとすることが必要 ・看護師による勉強会はとてもわかりやすいもので良いので継続 ・避難訓練では、避難の仕方の課題の反省を行えるようにしていく ・対応方法については確認しているが、いざという時に誰でも対応できるように、実践形式でも取り組んでいくと尚良いと感じる ・避難訓練のように他の緊急時の対応についても定期的に同じ内容での訓練の場があると、職員一人ひとりの意識が高まり、より身につくのではないか ・年度初めに書類一式で職員に配布され、各自が確認できるようにしている	3	3				日頃から訓練などを実施していただいているようで、安心して園にお任せすることができています。 今まで以上に危機管理ということが増えてくるとは思いますが、一つひとつ良い対応を考えていくしかないですね。 書類で確認することができるだけでも、空いた時間を活用できて良いと思います。 避難訓練は地域と連携して、地域での避難対策もお願いできればと思います。